

第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず「企画シート作成上の注意」をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）リュウコク ダイガク	フリガナ）ケイエイ ガクブ	フリガナ）クワツカ ケンタロウ ゼミ
龍谷大学	経営学部	鍬塚 賢太郎ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
フリガナ）クワチャンチャンコ	フリガナ）ホソミ ナツキ	6 名
くわちゃんちゃんこ	細見 夏希	

研究テーマ（発表タイトル）

自営業と地域活性化～わさび農家の“挑戦”～

1. 研究概要（目的・狙いなど）

大量消費大量生産により均一な商品の流通が主流とされていた規模の経済ではなく、小規模で、多様化するニーズに対応するためや差別化を図るために小規模生産だからこそ提供できるモノ・サービスがあると考えた。小規模生産の事例として自営業（農業）に着目し、高齢化や過疎化が進む農村部において、アントレプレナーシップをもった自営業者による地域活性化の重要性を研究結果として発表する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

小規模生産の事例として自営業を選択し、自営業による地域活性化の成功事例を調べたところ農業に関する成功事例が多くあった。しかし現状として農業就業者数は平成 22 年の 260.6 万人[うち 65 歳以上 160.5 万人]から年々減少し、平成 31 年には 168.1 万人[うち 65 歳以上 118.0 万人]（農林水産省 農業労働力に関する統計より）となっている。さらに農村部では過疎化や高齢化が進むなかで、農業による地域活性化の成功事例が多くみられる要因として、六次産業化が関係すると考える。六次産業化により、生産、加工、流通、販売を一貫して地域で行うことですべての工程でお金が循環する。さらに雇用の増加などのメリットがあり、地域活性化に著しく影響を与える産業形態である。そこで、和歌山県印南町川又地区にある平井わさび農園に調査に行き、自営として農業を営むことで小規模だからこそ地域活性化を目指すうえで何かメリットになることや、付加価値を生み出すことが可能なのではないかと考えた。和歌山印南町は最高品質である真妻わさび発祥の地であり、わさびの産地とし有名な静岡が台風により水害に見舞われた際にもわさびの苗を求め、印南町まで静岡のわさび農家が訪れたという歴史がある程、全国的にも土地としての信頼性は高い。これらの理由から、平井わさび農園を例に農業による地域活性化について考察した。

3. 研究テーマの課題

和歌山県印南町は高齢化が進み、高齢化比率は全国平均よりも大きく上回っている。わさび農業においても、生産にかかる手間や後継者不足の問題により農家は段々と減少し、発祥の地であるにも関わらず真妻わさび農家は平井わさび農園のみというのが現状である。さらに生産性が低いため、加工品として販売しているわさびの醤油漬けやわさび味噌は直接販売のみで取り扱っ

ている。しかし、月に数回全国の物産店で販売することで知名度向上に力を入れるが、需要に供給が追いついていないのが現状である。生産力が劣る要因としては、真妻わさびは比較的生産しやすい畑わさびとは違い水わさび（沢わさび）という品種で、水が綺麗であることなどを含む様々な条件が揃う場所でなければ栽培することが出来ない。土地に敏感であるため栽培場所を確保するだけでも困難である。人手不足でもあるため、生産性の向上には時間がかかる。しかし、将来六次産業化を目指すにしても土台となる生産を増やさなければ真妻わさびが継承されることはない。

印南町の高齢化率の推移



※高齢化率：総人口に占める65歳以上の人口割合(%)。年率不詳を除いて算出
※図中の線の点線は、前国2013年3月公表の「将来人口推計」に基づき各地域の高齢化率

© jp.gdfreak.com

(総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数を基に GD Freak!が作成)

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

平井わさび農園に関しては、そのために新たな農地拡大のために土地を全国に探し、加工品の開発などを含め、真妻わさびを後世に残したいという熱量を感じた。それらを踏まえて、私たちはアントレプレナーシップをもった自営業者の存在が地域活性化において重要なのではないかと考えた。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

[調査研究]平井わさび農園 和歌山県日高郡印南町川又地区（旧真妻）

明治 21 年（1888 年）からわさび栽培が開始。現在、四代目が後を継ぎ、わさびの他に干両の栽培も行っており、主にわさびの栽培には手間がかかることや、人手不足、費用不足などによりわさび専業では困難であることが現状であった。

6. 結果や今後の取り組み

アントレプレナーシップをもった自営業者の存在により、商品やサービスの魅力が消費者により鮮明に発信される。さらに、地域全体を巻き込む地域活性化において、重要な存在であり、商品やサービスに対する熱量の大きさは生産性に大きく関係する。

7. 参考文献

『ローカル志向の時代 働き方、産業、経済を考えるヒント』

著者：松永桂子

『ファームパークの展開と経営戦略：三重県モクモク手作りファームの場合』

論文 発行年：2004 年 著者：高橋生明

やはり“いざ”は凄かった！上勝町「葉っぱビジネス」の成功要因と人口増への課題

<http://www.hironorisatomoto.jp/archives/54457302.html>

“地元愛”が成功の秘訣 ゆずの村おこし、年商 30 億円

<https://www.nec-nexs.com/supple/autonomy/interview/umaji/>

和歌山県印南町公式ホームページ

http://www.town.wakayama-inami.lg.jp/contents_detail.php?frmId=600

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

●発表時に使用する成果物（例．商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

【企画シート作成上の注意】※「第10回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経BP社・日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

↑ここまでを4ページ以内に収めて、提出してください↑